

地域医療の担い手増やせ

小中学校で医師講話

柏崎総合医療センターは、地域で唯一の総合病院として、地域の皆様の多様な医療ニーズに応え、親しまれ愛される病院を目指しています。同時に、柏崎市からは、地域の医療職人口を増やすため子供たちに医療の仕事に興味をもってもらう機会を作りたいという提案があり、令和元年より『小中学校を訪問しての医師講話』がスタートしました。

講話は熱く語る3人の医師が担当しています。3人は整形外科医、内科医、小児科医で、出身校も違い、年代も違い、医師の子弟である者ない者と異なる背景を持っていますが、それぞれが医師としての哲学を自分の言葉で伝えています。新潟県中越沖地震をきっかけに当院でDMAT（災害派遣医療チーム）を立ち上げた医師は、DMATユニフォーム着用で話し、DMAT救急車の見学も行い好評を得ています。子供の頃から人体に興味があり図鑑を読み比べていたという医師は、少し時間はかかったけれども夢を実現させた青春を語っています。『ドラゴン桜』を引用し、戦略的に学習することが大事、中学高校時代に同じ目的意識を持った友人と出会えることは素晴らしい人生だ、と伝える医師もいます。

子供たちの心になにか残るものがあれば幸いです。

